

製品名: BLC ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07575**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	15kDa

抗原情報

遺伝子名	CXCL13
別名	CXCL13; BCA1; BLC; SCYB13; C-X-C motif chemokine 13; Angie; B cell-attracting chemokine 1; BCA-1; B lymphocyte chemoattractant; CXC chemokine BLC; Small-inducible cytokine B13
遺伝子 ID	10563.0
SwissProt ID	O43927
免疫原	抗血清はヒト CXCL13 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 41-90

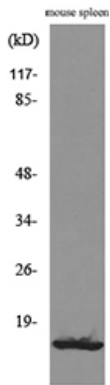
背景

C-X-Cモチーフケモカインリガンド 13 (CXCL13) は、独立してクローン化されアンジーと命名された、脾臓濾胞、リンパ節、およびパイエル板で強く発現する抗菌ペプチドおよび CXC ケモカインです。CXCL13 は、T 細胞やマクロファージと比較して B リンパ球の遊走を優先的に促進し、パーキットリンパ腫受容体 1 (BLR-1) を発現する細胞へのカルシウム流入と走化性を刺激することで、B リンパ球の濾胞へのホーミングに機能していると考えられます。[RefSeq 提供、2014 年 10 月]、機能: B リンパ球に対して走化性を示しますが、T リンパ球、単球、および好中球に対しては走化性を示しません。B リンパ球からカルシウム放出は誘導しません。BLR1/CXCR5 に結合する。、オンライン情報: CXCL13 エントリー、類似性: インタークリン α (ケモカイン CxC) ファミリーに属する。、組織特異性: 肝臓で最も高く、次いで脾臓、リンパ節、虫垂、胃に分布する。唾液腺、乳腺、胎児脾臓では低い。、

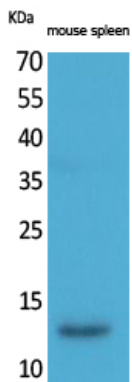
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;ケモカイン;

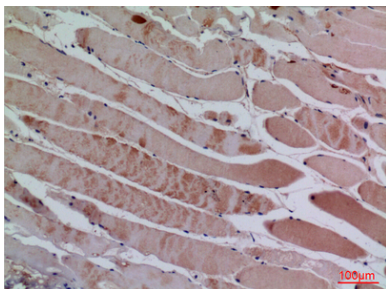
画像データ



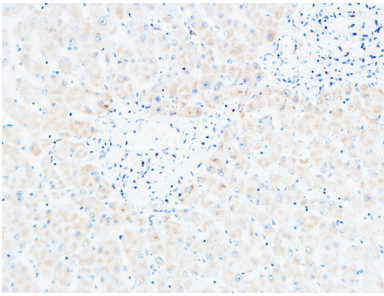
CXCL13 抗体を使用したマウス脾臓細胞溶解液のウェスタンブロット分析。



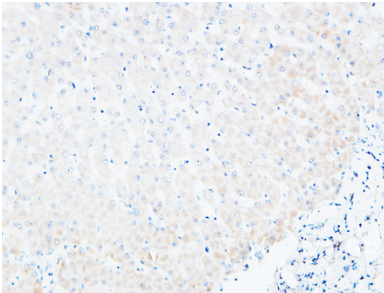
BLC ポリクローナル抗体を用いたマウス脾臓細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



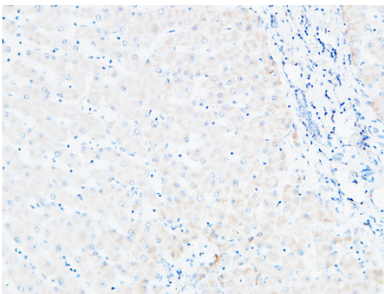
パラフィン包埋ヒト筋肉の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。